

宮前区区民会議地域防災部会（第5回）摘録

日 時 平成19年11月1日（木）18時05分～20時00分

場 所 宮前区役所4階第3会議室

出席者 渡辺部会長、小林委員長、亀ヶ谷委員、川西委員、鈴木恵子委員、長谷川委員、永野委員、福本委員、松本委員、

事務局 田邊企画調整担当主幹、中山企画調整担当主査、東企画調整担当主査、成沢職員
川本総務企画課主査
間島地域振興課主査

1. 開会・事務連絡（事務局）

事務局から事務連絡

- ・ 情報公開について
- ・ 行政側として総務企画課、地域振興課からの参加

部会長あいさつ

- ・ 今日が最後の部会、16日の全体会に向けて提案をまとめていきたい。

資料説明（事務局）

意見交換

課題の表現や全体の記述について

防災意識について

渡辺部会長 資料1に「防災意識の低下」とあるが、「低下」というと、徐々に低下しているようにも感じられる。「若い世代を中心に…」などの前回の表現の方が伝わるのではないか。

事務局 「防災意識の低下」という表現は、資料2の「防災意識の低さ」という表現に統一したい。

若年層の意識については、実感としてはあるのかもしれないが、実際にどうなのか、データの裏づけが難しい。言葉だけ先走りしては困るという配慮で表現を改めた。

川西委員 地震直前予報のモニターなどには若い人も多く、年代としての特性を指摘するほど意識が低いとは思えない。

松本委員 若年層がマンション買うときなどは、耐震などすごく真剣に考えている。むしろ高齢者の方が「先が短いから」などと言って、先送りにしてしまっている人がいるのではないか。若いから意識が低いとは言えない。

川西委員 防災については、「わかってはいるけれど、、、」という面がある。日常の備えや行動につながるかどうか重要であり、そこを強調したい。

共助の精神について

川西委員 特に若年層に共助意識の低下、町会等の地域組織への意識の低下が確かにあるように思う。

永野委員 共助によって自分も助かるという感じ方をもう少し表現できると良い。

松本委員 共助に関しての意識は確かに薄い傾向があると思う。お互い助けることで自分も助かるという意識を育てたい。

小林委員長 人間だれでもまず自分という部分がどうしてもある。自分も助けられる共助のプラスをもっと表現できないか。

耐震補強について

永野委員 耐震診断しても、補強しなければ意味が無い。耐震補強の重要性をもっと明確に出したい。

長谷川委員 住居耐震性の問題では、ブロック塀の問題が気になっている。実際の過去の大地震で、ブロック塀が倒れて人が怪我をしたり、車が動かせなくなったりといったことが起きている。現在の建築規制ではブロック塀は建てられないが、古くからの塀がまだ多く残っている。

松本委員 ブロック塀は通学路にもあり、私も気になっていた。逗子市では、通学路の見直しを行なった例がある。個人の家なので、働きかけが難しいが、啓発は必要ではないか。

高齢者に関する記述について

長谷川委員 区の特徴として、高齢者と子どもが上げられているが、子どもについて課題や対策が明確に出されていること一方で、高齢者に対する記述が薄い。

目代委員 会議で出たことがよく表現されているが、高齢者についての記述がやはり薄い。

人材の確保について

福本委員 28日に平小学校で行なわれた避難所開設訓練を見たが、非常にたくさんの方が参加していて、人の確保に苦労している我々の地域との差を感じた。地域の若い人への声かけがやはり必要だ。

亀ヶ谷委員 人材の確保の前提が町会の確保だけでは人的な対応が難しい現状がある。若い世代、組織に属していない人達の掘り起こしが必要であり、その部分の提案がほしい。

鈴木恵子委員 5頁の「既存の防災の…」で、組織のネットワークなどについてもふれてほしい。

中高生の活用について

小林委員長 宮前区の特徴として、日中の地域に若い世代がいない事実がある。中高生をできるだけ活用する手立てを提案したい。

川西委員 中高生の参加のしくみはぜひ提案したいが、具体的な検討がまだ充分でない。解決すべき課題の中で、5頁、8頁の2ヶ所で、宮前区の昼夜館人口比率等の特徴も踏まえて、記述を加えてはどうか。

全体の表現について

川西委員 課題のところに「向上」などの言葉があるのには少し違和感がある。もう少しそれぞれの現状課題解決策の流れや関連性がわかりやすくなるように整理をしてほしい。

亀ヶ谷委員 地域防災組織がまだ地域できちんとできていない、活用されていない中での提案は難しい。具体的な提案と総論のみの部分と混在している。

実際のアクションの積み重ねにつながる提案を

鈴木恵子委員 豊中で小地域での防災活動のサミットに参加した。「1人も見逃さないための防災対策」にまちぐるみで取り組んでいた。小さな単位で、まちぐるみで、取り組むことの重要さが繰り返し主張されていた。

一昨日にも野川で健康に関する集まりがあったが、AEDや救急法の講習、200人分のおにぎりの炊き出しなどに地域で毎年取り組んでいる。実際の体験を積み重ねていかないと、なかなか実感になっていかず、いざという時にも動けないのではないか。実際のアクションにつながる提案が重要だ。

提案の内容について

提案1：(仮称)宮前区版「みんなでやろう防災対策」の作成 について

永野委員 参考資料の内容以外に時間軸で追っていくような整理も必要だと感じている。

事務局 「備える。かわさき」が既に全戸に配布されていることをよく踏まえた上で、新しい資料や配布物を作成することの意味や有効性について、充分ご議論をいただきたい。「備える。かわさき」をじっくり見ていただくとかかなりの情報が入っている。内容も昨年改定したばかりであり、これを区民の方々に再度見ていただくような啓発も進めていきたいと考えている。

福本委員 マグネット等の形式にするなら、例えば災害伝言板の電話番号 117 を前面に出すなど、内容を最も重要と思われる事柄に絞りこむ必要がある。冊子やパンフレット形式はどうしても保存用になってしまう。

長谷川委員 ただ読ませる形式ではなく、自分で書き込んだり、チェックできる形式が一番身につく。

福本委員 最近は活字離れしている高齢者も多い。「備える。かわさき」には、一部記入し、切り抜いて、家庭内に掲示できるページもある。もっとこれが活用されるようにしたい。

永野委員 便利帳はなんでも載っているという認識があり、よく出し入れして活用しているが、「備える。かわさき」は薄いこともあり、ついどこかにしまってしまう。

川西委員 「備える。かわさき」は総花的によくたくさんの情報が抑えられているが、自分との引き比べが弱い。別紙として、災害の発生前後に何をしなければいけないか、チェックリストのような資料が必要ではないか。例えば出前講座で、確認作業を行わせる。時系列でやるべきことを再認識するような形がほしい。

ステッカーや標語づくりに子ども達も参加させ、絵などの作品を描いてもらうようなプロジェクトを教育関係者や危機管理室と一緒に立ち上げて良いと思う。

小林委員長 出前講座でインストラクターが用いる為の資料を作成してはどうか。自分がどのくらい知り、行動できているかチェックを行い、さらに配布するようにすれば、効果的だ。パワーポイントなどのツールも有効に用いたい。

渡辺委員 「わが家でできる耐震診断」という自分でチェックして、得点がでるような資料もある。これに似た形式の資料を作成してはどうか。

永野委員 例えば「誰でもできる我が家の防災診断」としてできれば面白い。

亀ヶ谷委員 家庭内防災会議と訓練、各家庭での試みが進むようなしかけをしてはどうか。

鈴木恵子委員 まちぐるみの活動の中で家庭の試みをやっていく。一人暮らしの方も多い、家庭がない方もいることを忘れてはならない。

福本委員 各家庭庭内で、いざという時のための話し合いができれば、それぞれの立場の意見が出て、かなり意識が高まるのではないか。

鈴木恵子委員 「平成関東大震災」という漫画が少し前の本屋のランキングでも高い評価を受けていた。都庁に営業で行っていた父親が大地震に遭い、帰宅するまでを描いているが、ところどころに実際のデータが入ったり、様々な被害やそれに直面した際の葛藤が描かれており、すごく怖く、リアリティがある。若い人達も入りやすいのではないか。

長谷川委員 A4版1枚物の家庭の防災対策チェックリストにして、出前講座で活用してはどうか。

鈴木恵子委員 「防災対策のチェックリストとして確認したり、時系列でやるべきことがわかるような、リアリティある資料を検討する」という記述をいれてはどうか。まったく新たな資料としての作成は確かに少し重い。

提案2：防災出前講座の拡充

川西委員 出前講座は既存の団体以外に個人へのアクセスとしても有効性があると感じている。

「区役所が主体的に…」という記述があるが、具体的にどこがどう働きかけるのか？地域振興課だけの話ではなく、声かけだけでなく、事務局的作用も担っていく必要がある。

小林委員長 様々な会合の情報は、やはり区役所が一番持っている。積極的な展開を区役所に期待したい。

川西委員 ただ声をかけるということだけではなく、ある程度区役所内でも組織づくりをお願いしたい。各講座に必要な講師を派遣するだけでも結構な調整作業が必要だ。

鈴木恵子委員 区役所が窓口になるが、本来は地域が主体となって、区役所が支援していく形が理想だ。地域の事は地域が一番知っている。窓口は明確な一本化が必要だ。

事務局 出前講座の存在がまだ十分に知られていない部分があると考えている。今後は様々な課から、関係する区民や団体に呼びかけを積極的に行なっていきたい。きっかけづくりを行うということで、実際に出前講座を開催するかしないかを決めるのは、地域だ。

川西委員 防災は他のテーマと比べて、教育と直接的につながりにくい部分がある。クロスロードゲームの中学校での活用も検討したが、防災ではなく、教育版にアレンジして行なうという話になっている。理想は中学生世代から地域人としての教育を進めたいが、学校とのタイアップが不可欠でまだそこまで至っていないのが現状だ。

提案3：(仮称)宮前区版防災インストラクターの育成

小林委員長 インストラクターの人数の議論などもあったが、この表現で良いか。

事務局はコーディネートをどこまでできるのか。実効性がどこまで補償されるのか。きっかけづくりは行政にお願いしたい。

永野委員 町会に声をかけるような今までと同じやり方ではなく、学校や市民活動団体を通じて声をかければ、これまでとは違う人材ですぐ100人くらい集められるのではないかと。

小林委員長 インストラクターは専門的な知識はなくてもよく、呼びかけ・啓発ができれば良く、人つなぎのための広報というイメージだ。

鈴木恵子委員 「インストラクター」と聞くと、「勉強してからでない」という印象が強い。

小林委員長 防災広報員、もしくは防災推進委員という名称にしてはどうか。協議の結果「防災広報員」とすることとした。

松本委員 人前で話すことに対して抵抗感を持たれる方も多い。気軽になっていただけるようにしたい。

小林委員長 なるべく視覚的に訴えたいので、パワーポイントなども使えると良い。

松本委員 パソコン関係には抵抗感もある人も多い。PTAを見ていてもそうだ。

鈴木恵子委員 防災マップのインストラクターでは、紙芝居形式の資料や、説明のシナリオまで用意している。しかけをどこかがつくってあげれば、皆さん経験から自分で学んでいき、自分なりの説明を考えるようになっている。

渡辺部会長 小林委員長からは、区民会議委員はぜひ全員インストラクターになっていただきたいという話もあった。

事務局 消防団の活用という話もだが、消防団は消防局で事務局をしており、消防団の役割はあくまで公助の補助ということで、地域の役割には組み入れないほうが良いという見解だった。

長谷川委員 インストラクターが増えていけば、出前講座のコーディネートも自前で行なえるようになっていくだろう。

その他

今後の進め方として以下の点を確認した。

- ・ 11月16日の区民会議全体会に向け、今日の意見を踏まえて部会としての提案をまとめる。事前に各委員には資料を送付し、再度意見を確認する。
- ・ 区民会議全体会での意見を更に踏まえ、最終的な提案をまとめ、区長に提案する。その後、その他の主な流れは昨年の高齢者部会、こども部会と同様とする。
- ・ 年度内第4回目の区民会議（2月頃を予定）は約2年間の区民会議の総括の場とする。

（以上）